

「いい湯だな!」。老若男女が仲良く混浴できる足湯は、コミュニケーションの場になっている



ひまわり
出会い広がる 3 ページ

芦屋 de 足湯

はんしん
写真・文 山田哲也

4

手軽に入浴気分が楽しめる足湯が、温泉ブームと相まって人気となる中、今年3月、南芦屋浜に「潮芦屋げんき足湯」(芦屋市海洋町)がオープンした。県が震災10周年記念事業の一環として、復興住宅の入居者や地域住民の憩いの場として整備した。足湯と言っても、れっきとした天然温泉で、源泉かけ流しの湯。どこかの温泉と違って、薄めていないし、入浴剤も使っていない。昨春、地下15.65mで掘り当てた50.6度のナトリウム塩化物高温泉なのだ。有馬温泉の「金の湯」のように濁っており、少しヌルヌルしている。湯温は42度で、一度に約15人が利用でき、車椅子のスペースも2カ所ある。

潮芦屋げんき足湯

足湯は第2の心臓と言われ、全身の「ツボ」が点在している。足を10分程度つけていると、血行が良くなり、足先がポカポカして、汗が出てくる。神経痛や冷え性、切り傷、やけどに効能があるという。入浴料は無料で、利用時間は午前10時〜午後4時。平日で平均140人、週末には約300人が癒やしを求めている。

足湯は第2の心臓と言われ、全身の「ツボ」が点在している。足を10分程度つけていると、血行が良くなり、足先がポカポカして、汗が出てくる。神経痛や冷え性、切り傷、やけどに効能があるという。

